

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニューズレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0877 ◆◆◆

26/02/04

## 【 1 月相場はなかなかの大相場、2 カ月連続の動意を期待 】

先週末で終了した 1 月のドル/円相場の月間変動は、7.35 円(152.10-159.45 円)となった。前月の昨年 12 月に、2025 年の月間最小変動 3.44 円を記録していたが、その反動ともいえる「大きな動き」が観測されたと言えそうだ。

ただし、問題は 1 月のような月間大変動が足もと 2 月以降も続くか否か。材料的なものを考えると、自民党の大勝観測も出ている今週末の衆院選を経て、いわゆる「高市トレードの第 2 幕」を期待する声も少なくない。また、それを踏まえうえて、為替市場においては今度こそドル売りの実弾介入が実施されるとの見方もあるようだ。そんなこんな考えると、確かに 2 月相場は波乱含み。大相場の予兆もうかがえる。

### ◎過去 4 年は「大相場」と「小変動」の繰り返し、パターンのには「小変動」!?

当レポートでは、恒例となっている過去の経験則をもとにした足もと 2 月の月間見通しを取り上げるが、特徴について指摘する前に、まずは勝敗・星取表をみておきたい。1990 年以降昨年まで過去 36 年とはというと、17 勝 19 敗だった。わずかにドル安・円高が有利ながらほぼ五分と言ってよい内容で、これといった特徴ではないようだ。

しかし、別の特徴を調べてみると、「動くときには大きく動くが動かない年はまったく動かない」— という両極端になり易い傾向が強うかがえることがわかった。

うち前者、「大きく動いた」際の典型例は 2023 年。同年は年間を通して、なかなか大きな変動を記録しているが、なかでも 2 月相場の月間変動は 8.82 円で年間 1 位の動きを記録している。また、昨年も月間変動は 7.32 円で、年間 4 位を記録していた。

その反面、「まったく動かない」年の典型は 2022 年だろう。月間変動幅はわずか 2.18 円で、ダントツの年間最下位。また、2024 年 2 月も月間変動は 5 円にもとどかない 4.98 円と、やはり年間で最下位にとどまっている。

ちなみに、先の指摘でわかるように過去 4 年間の 2 月相場は年間の「月間小変動」と「同大変動」が交互に到来するというパターン。あまり過信することはしたくないが、仮に今年も続くとするならば、今年は順序的に「小変動」— となるのかもしれない。

一方、前記の 2 月相場が「動くときには大きく動くが動かない年はまったく動かない」— という両極端の価格変動になり易い傾向は、必ずしもドル/円だけに限ったことでない、ということは頭に入れておいて損はない気がしている。

こちらはユーロ/円やポンド/円など、円絡みのほかの通貨ペア全般にみられる特徴。一例を挙げると、年間を通したドル/円の月間変動が「最下位」を記録した 2024 年のユーロ/円は月間変動 5.6 円で年間 10 位、ポンド/円も同じく 10 位の変動にとどまっていた。

最後に、カレンダー的な側面から 2 月の出来事を調べてみると、過去の 2 月は重要事象それも為替や金融に関することが多いようだ。

幾つか例を挙げると、「日本が新円へ切り替え(1946 年)」、「ドル/円が変動相場制へ移行(1973 年)」、「ドル安に歯止めをかけるルーブル合意(1987 年)」、「G7 声明で『ドル安は正終了』を宣言(1997 年)」などのほか、比較的最近には「G7 が『為替は市場で決定されるべき』との緊急共同声明を発表(2013 年)」、「日本の長期金利が初めてマイナスに(2016 年)」— といった事象が起こっている。さらに、2024 年の 2 月には「日経平均株価がバブル期最高値を 34 年 2 カ月ぶりに更新した」ことも記憶に新しいだろう。

また、昨年 2 月とは言う、「ホンダと日産が経営統合協議の打ち切り」、「ドイツ連邦議会(下院)選挙で与党が敗北、5 月に新首相誕生へ」— など、世界的に大きな反響を呼んだ政治・経済ニュースが観測されていた。

もちろん、こうした事象は毎年確実に起こるというものではないものの、米欧の分断が懸念されるなかスターマー英首相に続き、2 月にはドイツのメルツ首相も中国を訪問する予定となっているなど、先の日本の

